

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	English C		
英文授業科目名	English C		
開講年度	2004年度	開講年次	1年次
開講学期	2学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 量子・物質工学科 システム工学科		
担当教官名	狩野 暁洋 (学内連絡教官 佐藤 美弥子)		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
akikano@mac.com	

<b>【主題および達成目標】</b>
英語で書かれたテキストを理解する為に必要な、様々なスキルを身につけることがこのコースの主要な目的です。また、英語の得意な学生には普段から自分で英文を多読する習慣を身につける指導をします。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
なし

<b>【教科書等】</b>
教科書: Milkulecky, B. S., & Jeffries, L. (2004). More Reading power (2nd ed.). White Plains, NY: Longman.

【授業内容とその進め方】

授業は教科書に載っている練習問題を中心に取り扱い、前期で紹介したものよりも扱う文章のレベルが多少高度になる。育成してゆくスキルと授業でとりあつかう練習問題には次のようなものが挙げられる。

1. 目的や用途により、違った読み方ができる能力の育成
  - (1) Scanning (テキストにある特定の情報をできるだけ速く収集する)の練習
  - (2) Skimming (テキストに目を走らせて、その概要を把握する)の練習
2. パラグラフで文章を理解できる能力の育成
  - (1) パラグラフを読んで、そのパラグラフのトピックを自分で書いてみる練習
  - (2) パラグラフを読んで、その趣旨を自分でまとめる練習
  - (3) パラグラフを読んで、そのパラグラフの最後にくる文をリストから選び出す練習
  - (4) パラグラフを読んで、その文章がどのようなジャンルに属するのか判断する練習
3. テキストを読む際にBackground knowledgeを活用する力を養う
  - (1) 語彙の意味を前後の文脈から推察する練習
  - (2) 会話文を読んで、その会話がどこで行なわれているかを推察する練習

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法

成績評価は以下の基準で行なっていく。

期末試験	60%
宿題及び提出物	20%
授業参加	20%

尚、A以上の成績を取りたい学生には、自分で興味のある(30ページ以上の)洋書を一冊読んで、学期末に簡単なブックリポートを提出してもらいます。

(b) 評価基準

最低基準

- (1) 出席率が3分の2を満たしている。
- (2) 指示された宿題と課題を基準以上にやってきている。
- (3) 期末テストで最低基準の得点がとれている。

【オフィスアワー：授業相談】

オフィスアワーはないが、授業のことにに関してアポイントメントを希望する学生は電子メール等で連絡すること。

【学生へのメッセージ】

この授業では、リーディングのスキル育成を重視している為、難解な文章は使用しません。

電気通信大学 平成16年度シラバス

【その他】